

四国民放クラブだより

私の音楽変? 歴

ラテン音楽キューバ・メキシコ編

河野 照雄 (RKC)

1952年ごろ日本でヒットしたのは、マンボの王様ペレス・プリード楽団の『マンボNo.5』『No.8』など、大流行しましたが、私の好きな曲は、『エル・マンボ』『マンボ・黒馬』『闘牛士のマンボ』などです。

その中でも『エル・マンボ』は、特に印象に残っているのが、文化放送の『S盤アワー』で、帆足まり子氏司会のオープニングテーマ曲であったためですが、『S盤アワー』のエンディングテーマ曲が思い浮かびません。

そこで、10年ぶりに、CD・レコードショップへ行ってみると、『S盤アワー』のCD(消費税5%時代)を発見し、ジャケットを見て思い出しました。ラルフ・フラナガン楽団の『唄う風』でした。早速、10枚組の内残っていた1、4、6、8、10を購入した次第です。

私が、マンボに興味を持ったのは高校時代の一年先輩に、マンボ

好きがおり、蓄音機のゼンマイが切れていても、レコードラベルを指で廻して78回転を出して聞いていました。

我が家にも、蓄音機があり、戦中は竹針で聞いていました。竹針専用のハサミ(アルミ製)もありましたが、今は、蓄音機と共に行方不明になっています。

この先輩と高校卒業後5、6年後に同好会「ラテン高知」を結成し、先輩N氏を会長に、ラテン音楽全般を聴く会を約30年余り続けました。



CDコレクションから

マンボと同じころ、ジルバの王様ザビア・クガート楽団の『シボネ』『マイショール』『フレネシ』

『チヨコ・チヨコ』などもよく聴きました。

マンボ、ルンバと同じころよく聴いたのは、レクオーナ・キューバンボーイズでした。

その頃、私は、貧乏学生でレコードを買うことが出来ず、もっぱら先輩のレコードを聴いていました。その中でも、印象に残っているのは、1935〜37年頃の録音で、『ルンバ・ネグロ』『マリア・ラオ』『アマポーラ』など代表的な曲だと思っています。このレコードもカセットテープにプリントされたものを今も大事にしています。

次にトリオ・ロス・パンチョスを考えたいと思います。代表曲は『キエレメ・ムーチョ』『キサス・キサス・キサス』『キエン・セラ』『アモール』『ラ・ゴロンドリーナ』など名曲の多くを歌っています。

トリオ・ロス・パンチョスと共によく聞いたのは、ロス・トレス・ディアマンテスですが、ここでは、ロス・トロバドールズについて考えたいと思います。このトリオに出会った最初の曲は『シエルト・リンド』と『ラ・サンドウング』でメキシコ民謡の代表曲であるこ

とは間違いないです。

この3人組も、その名の通り「メキシコの吟遊詩人」達で、歌の伝統を守っていると思います。

次に、メキシコといえばマリンバ・バンドだと思います。大型マリンバ1台を3人で連打する魅力は先ず、ロス・メカテロスのメドレー曲『チアパス・メドレー』(サン・クリストバルへの道)エル・ポロンチオン〜ラス・チアパネカス〜チアパス』と『ベラクルス・メドレー』(ラ・バンバ〜エル・テリンゴ〜エル・バラフ)』を面白く聞いています。

最後に、日本のバンドを代表して、見砂直照式「東京キューバン・ボーイズ」をあげたいです。マンボ、ルンバの曲が、色々ありますが、『闘牛士のマンボ〜ババルー』まで34曲入りのCDを聴きながら、原稿を書いています。

思うに、東京キューバン・ボーイズには、名アレンジャーの存在が大きいと思います。内藤法美(歌手越路吹雪さんの夫君)のアレンジがあつての事だと思えます。今回は、アルゼンチンタンゴとフォルクローレ編を考えたいと思います。